

おうちで百人一首

ひやくにんいっしゅ

ひやくにちご

百日後にマスターするわたし

四日目

今日の一首

猿丸 大夫



上の句

奥山に

さるまる たいふ

紅葉踏み分け

もみぢ ふわ

鳴く鹿の

な しか わ

下の句

声聞く時ぞ

こえ とき

秋は悲しき

あき かな

まめちしき！

3回、声にして
読んでみよう！

歌の意味

秋が深まつていくころは、それだけ
でも寂しいのに、山の奥から紅葉の
落ち葉を踏みながら、一人ぼっちで
鳴いている鹿の声が聞こえてくると
ますます寂しく感じられます。

「もみづ」は元々、木の葉
の色が変わつていくといふ
意味の「もみづ」という言
葉からできただそうです。

朝ぼうけ 有明の月と 見るまでに 吉野の里に 降れる白雪

中・高学年向け